

## 令和5年における火災の状況

令和5年中の火災の状況について、確定値を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

総出火件数は246件で、平成以降で3番目に少ない件数となっています。

### ① 総出火件数は、246件、前年より37件の増加

総出火件数は、246件で、前年より37件増加しています。

火災種別でみると、建物火災は153件で26件増加、車両火災が17件で3件増加、林野火災が0件で同数、その他の火災が76件で8件増加となっています。

住宅火災件数は86件で前年より3件増加しており、建物火災の56.2%が住宅火災となっています。

### ② 死者数は14人、前年より7人増加

火災による死者数は14人で前年より7人増加しており、負傷者数は39人で前年より3人増加しています。

### ③ 住宅火災による死者（放火自殺を除く）数は10人、前年より6人増加

住宅火災の死者（放火自殺者を除く。）数は10人で、前年より6人増加しています。

### ④ 出火原因の第1位は「放火（疑い含む）」、第2位は「電灯・電話等の配線」、第3位は「たばこ」です。

総出火件数の246件を出火原因別にみると、「放火（疑い含む）」が34件（13.8%）「電灯・電話等の配線」が31件（12.6%）、次いで「たばこ」が30件（12.2%）、の順となっています。

### ※ 火災予防のポイント

- 1 住宅火災からの逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置しましょう。また、住宅用火災警報器は精密機械ですので、定期的に清掃・点検などを行い正常に作動するか確認しましょう。
- 2 たばこやこんろ等の小さな火源から延焼拡大するのを防ぐため、寝具、衣類及びカーテンは防炎品を使用しましょう。
- 3 放火の多くは、ごみ集積所や公園、住居の敷地内などの屋外です。家の周りに燃えやすい物を置かない、ごみは収集日の朝に出す、車やバイクのカバーは防炎品を使用するなど、地域ぐるみで放火されない環境づくりに取り組みましょう。
- 4 こんろやストーブからの出火を防ぐために、使用方法をしっかりと確認して正しく使用しましょう。
- 5 モバイルバッテリーなどのリチウムイオンバッテリー等を搭載した製品は、衝撃や分解・改造により発火する危険があるため、取扱説明書に定める取扱い方法を守りましょう。

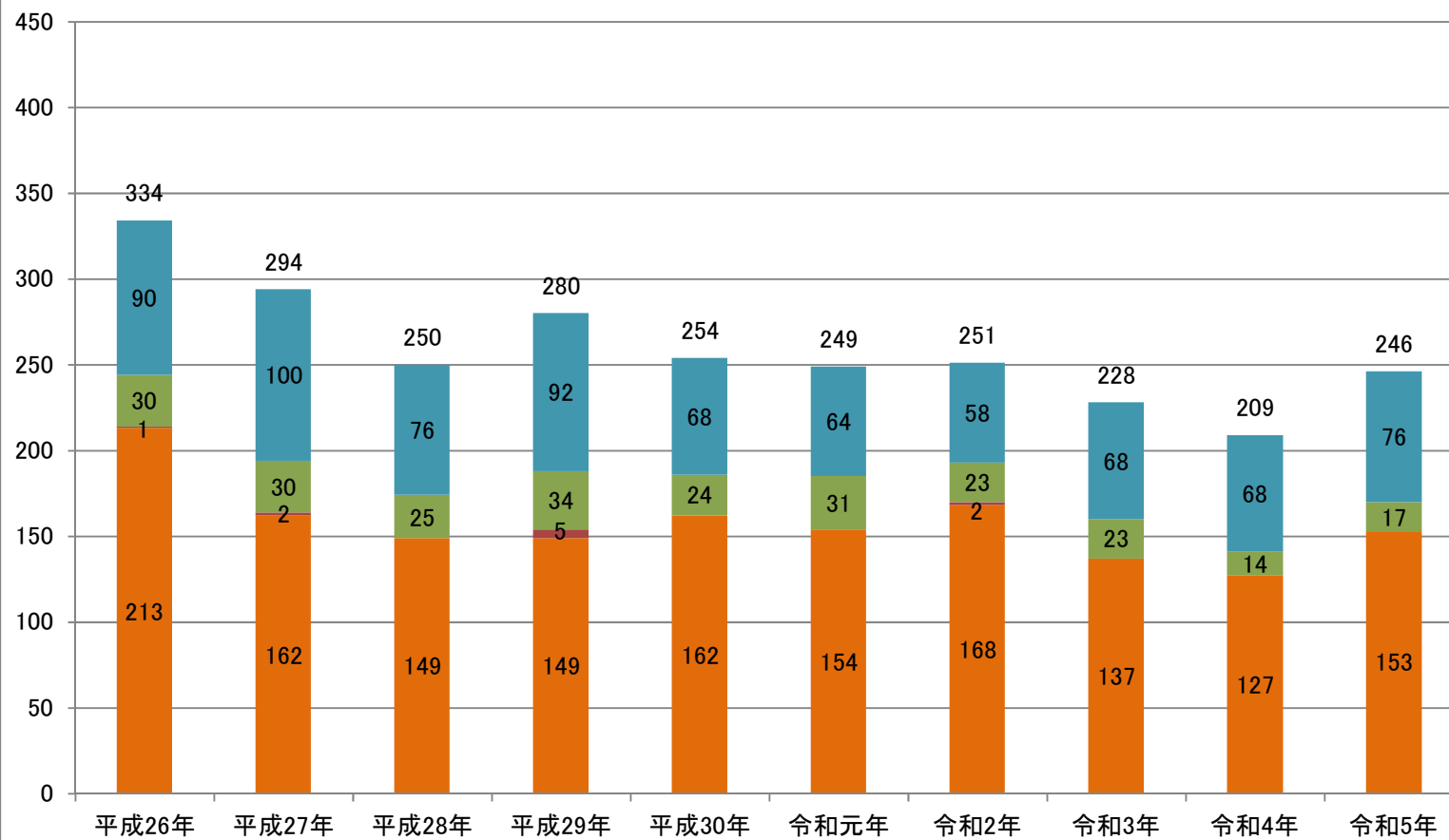
処分する際は、電池の電極や製品の端子部分にテープ等を貼り、絶縁したうえで透明な袋に入れてから、「缶・びん・ペットボトル・廃乾電池類」の収集日に黄色の回収箱に捨てましょう。また、区役所や総合支所などに設置している「充電電池等回収ボックス」等に持ち込むなど、正しく処分しましょう。

## 令和5年と令和4年の火災件数等の比較

	令和5年	令和4年	前年比	
出火件数	<b>246</b>	209	37	
建物火災	<b>153</b>	127	26	
(うち住宅火災)	<b>86</b>	83	3	
車両火災	<b>17</b>	14	3	
林野火災	<b>0</b>	0	0	
船舶火災	<b>0</b>	0	0	
その他の火災	<b>76</b>	68	8	
火災による死者数	<b>14</b>	7	7	
火災による負傷者	<b>39</b>	36	3	
住宅火災による死傷者数 (放火自殺を除く)	<b>10</b>	4	6	
(うち65歳以上の高齢者)	<b>7</b>	2	5	
原因別出火件数 (上位5位)	放火(疑い含む)	<b>34</b>	20	14
	電灯・電話等の配線	<b>31</b>	43	-12
	たばこ	<b>30</b>	24	6
	こんろ	<b>28</b>	18	10
	電気機器	<b>16</b>	14	2

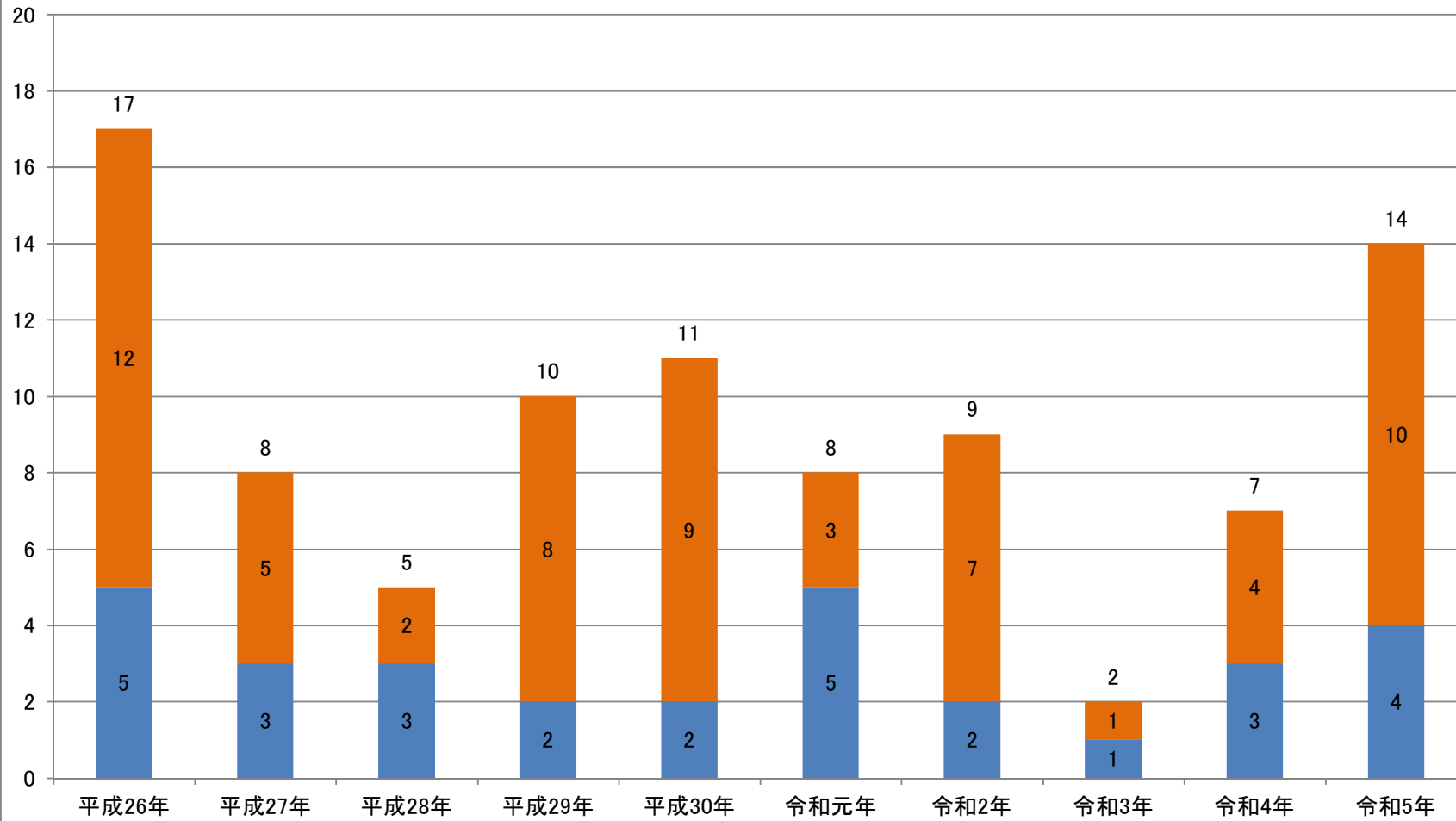
## 過去10年間の火災の推移

■ その他火災   ■ 車両火災   ■ 林野火災   ■ 建物火災



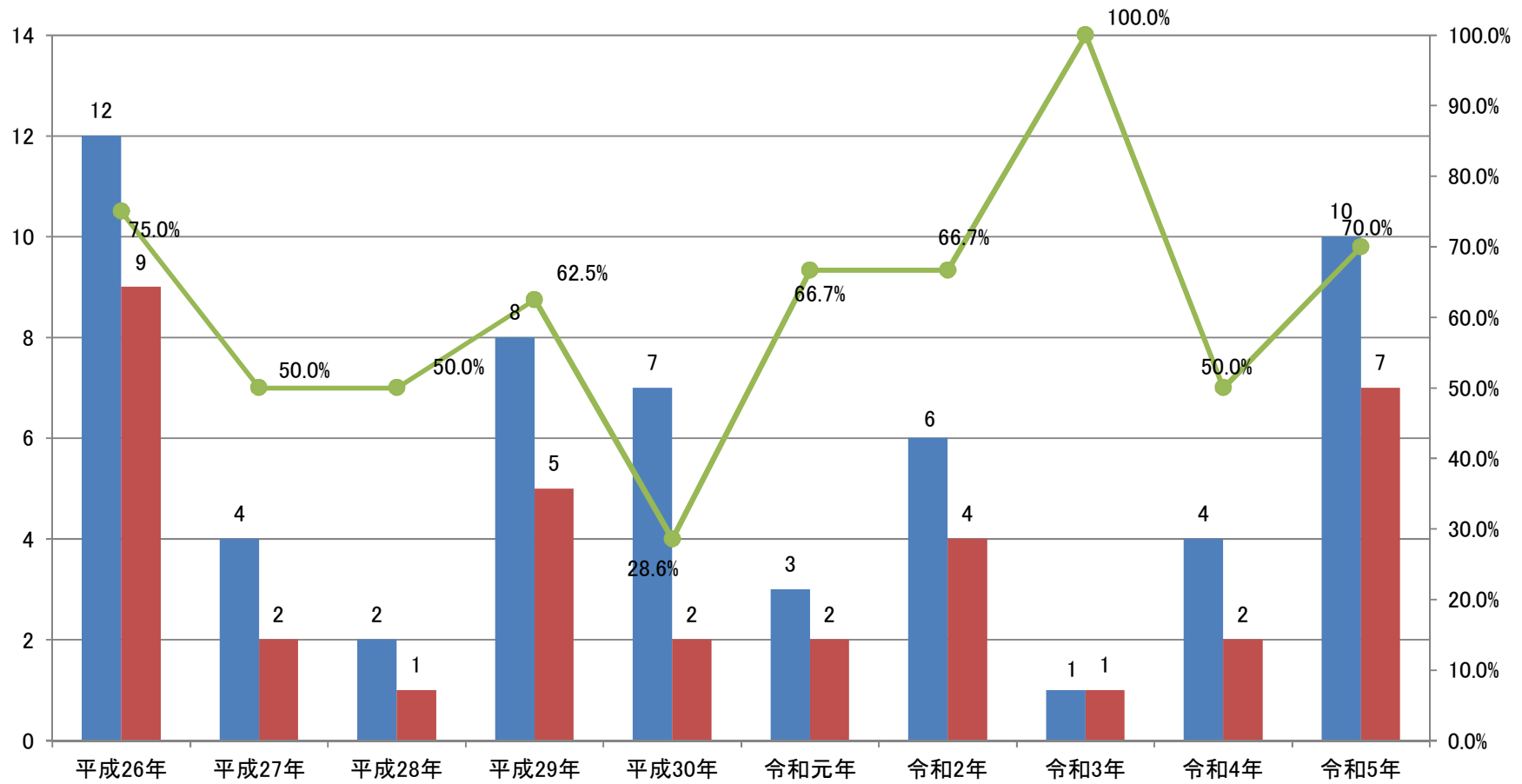
## 過去10年間の死者数の推移

合計    ■ 放火自殺者を除く死者数    ■ 放火自殺者数



## 住宅火災における死者数の推移(放火自殺者を除く)

■ 住宅火災による死者数 ■ 住宅火災における高齢者(65歳以上)死者数 ● 高齢者(65歳以上)死者数の割合(%)



## 出火原因の内訳

